

高齢者に配慮した住宅を整備する考えは

問 高齢者の住まいと生活の支援については、安全性や利便性に配慮した施設を整備するとともに、生活支援サービスを行うなど、ハード、ソフトの両面からの環境整備が必要と考えるが、本市の考えは。

答 **福祉事務所長**／本市においては、介護保険事業計画に基づき、高齢者が見守り等の支援を受けられる施設整備を進めており、現在、特別養護老人ホームが十三か所、介護付有料老人ホームなどが十二か所設置されている。また、市営住宅の建設等に当たり、エレベーター整備のほか、バリアフリーやユニバーサルデザイン

を基本とした高齢者などに優しい施設整備を進めている。また、高齢者の見守りについては、地域包括支援センターや民生委員、自治会などの地域住民と連携を図っているほか、新聞店などの協力によるあんしん見守りネットワークの取組を進めており、今後も地域包括ケアシステムの充実を図ることに



▲高齢者に配慮した市営住宅

より、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生き生きと暮らしていけるような支援に努めていく。

戸田地区のまちづくりに対する認識は

問 戸田地区のまちづくりに対する本市の認識は。

答 **企画部長**／戸田地区は美しい自然景観やロシアとの交流の歴史、タチバナや深海魚など、他地域に誇れる地域資源を有しており、時間がゆつたりと流れているような独自の雰囲気により、来訪者に癒しや特別な体験を提供できる地域であると認識している。平成二十七年に整備された道の駅くら戸田には多くの来訪者が立ち寄るほか、地域住民のコミュニティ活動等の交流拠点として機能し、また地域内外からの出店やイベント会場として活用され、新た

な「にぎわい」が創出されている。市としては、本施設を情報発信拠点として、地域の魅力を連携させるとともに、基幹産業である観光業や水産業、農林業などの活性化に向け、地域資源を活用して戸田地区の魅力を高める活動を支援していく。このように様々な振興策に取り組むことで、地域住民が生き生きと暮らすことができ、多くの人が訪れる地域にしたいと考えている。



▲新たな「にぎわい」を創出する「くら戸田」

岡田 進一 形式一 括

井原 三千雄 形式一 括

委員会レポート 連合審査会（建設水道委員会・文教産業委員会）を開催

委員会レポート

道路と古墳の両立を図る (都)沼津南一色線 設計競技の結果報告

都市計画道路沼津南一色線の道路整備と高尾山古墳の保存の両立を図るため、全国初となる橋梁とトンネルを対象としたデザインコンペが実施され、最優秀提案として、ふるさとの風景をつくる「みちにわ」が選ばれました。その結果が連合審査会において市当局から報告され、委員から質疑がありました。



▲最優秀提案 ふるさとの風景をつくる「みちにわ」

連合審査会で交わされた主な質疑

問 デザインコンペで最優秀提案が評価された点は。

答 最優秀提案は、橋梁、トンネルを設置する際に、古墳を毀損せずに配置できる点や、橋梁横に空中歩廊を取り付けることにより古墳を見渡せる視点場が増え、歩行者、来訪者などの安全な動線を確保できる点などが評価された。

問 国史跡指定と古墳の整備のスケジュールは。

答 国史跡指定については、道路整備の設計完了後とな

る令和4年度を目途に、史跡指定に向けた国との調整等を進めていく。古墳の整備については、国史跡指定後に、学識経験者等で組織する専門の委員会を設置し、古墳の保存と活用に向けた整備計画を策定し、工事に着手していきたいと考えており、道路整備の進捗を踏まえながら、令和10年代の早期の完成を目指していく。



高尾山古墳のキャラクター「タカオさん」